

平成 26 年度 定例研究会

日 時 : 平成 26 年 6 月 25 日 (水) 16:20~17:50

場 所 : 3 号館 3303R

報告者 : 「ナショナル・アイデンティティとジェンダー

– 「慰安婦」問題解決運動の経験を通して –」

本学文学部英米語英米文学科教授 山下 英愛

2014 年度日中韓言語・文化に関する国際学術シンポジウム

平成 26 年 10 月 3 日 (金)、2014 年度日中韓言語・文化に関する国際学術シンポジウム (1 号館 134 教室、13:00~18:00) を実施しました。



日 時 : 平成 26 年 10 月 3 日 (金) 14:40~17:50

場 所 : 1 号館 134R

報告者 : 山崎豊子『約束の海』論 —消された兵士の復活—
徐 載坤(韓国外国語大学校)

文明論の視点から見る戦前期の中日関係
邵 建国(北京外国语大学)

仏教寺院の復興と越境するネットワーク
—雲南省でのフィールド調査から
長谷川 清(文教大学)

「自動詞+てしまう」と「他動詞+てしまう」の使い分けについて

安 平鎬(韓国誠信女子大学校)

従属節の構文的機能と形態的機能

—様態修飾を表す【～V ように】節のアスペクト性に関する一考察—

于 日平(北京外国语大学教授)

因果関係の「ノダ」文をめぐって

鄭 相哲(韓国外国語大学校)

複数を表す日本語の「～たち」と韓国語の「～?[t?l]」の対照研究

朴 敏瑛(韓国外国語大学校)

漢語オノマトペの日韓両言語における受容と変化

宮武利江(文教大)、権 景愛(韓国外国語大学校)

コメントーター：馬小兵(北京大学)

津留崎 由紀子(文教大学兼任講師)

鈴木健司・阿川修三 (文教大学)



大学院付属言語文化研究所 2014年度研究例会

ー世界の言語と文化について学ぶー

以下の要領で開催いたしますので、ふるってご参加ください。

報告者：「ナショナル・アイデンティティとジェンダー
～「慰安婦」問題解決運動の経験を通して～」

文学部英米語英文学科教授 山下英愛

日 時：平成26年6月25日(水)

16:20～17:50

場所：3号館・3303教室

主催：大学院付属言語文化研究所

大学院付属言語文化研究所 2014年度 第2回 研究例会

—世界の言語と文化について学ぶ—

以下の要領で開催いたしますので、ふるってご参加ください。

報告者：「昭和研究会の思想と活動
—1938-1939年を中心に—」

言語文化研究所 準研究員 李 晨

「原因・理由節における
ル形の性質と時間前後関係」

言語文化研究所 準研究員 唐 亮

日 時：平成27年 1月28日(水)

16:20～17:50

会 場：3号館・3303教室

主 催：大学院付属言語文化研究所